

「飼育員のお仕事」編

タイトル：飼育員のお仕事

推奨学年：全学年

対象教科：生活科、総合学習など

教材観・児童観・指導観

本事業は千葉市内の小学校から毎年度約 50 校・3000 名が参加している。過去のアンケートから、市内小学校に在籍する児童は「動物園やそこで働く職員の仕事内容に興味」があり、「普段とは異なる授業により、特別感を味わい、刺激を受けている」ことが分かっている。動物公園職員によるオンライン授業を実施し、児童が校外学習や各家庭で動物園を訪れた際に新たな視点を獲得し、動物園の本質的な一面にふれ、職務内容への興味も湧いたなどの感想が得られたことから、本事業は動物園への興味関心を高める効果があると考えられる。

授業目的

動物園の役割や業務を知り、仕事と人々との繋がりに気づくきっかけをつくる。
自らの興味関心と仕事を結びつけるきっかけをつくる。

〔 校外学習の事前学習として→動物園を観覧する際の視点を増やす。 〕

授業概要

飼育員のお仕事を題材に、動物園の役割や「しごと」について考えます。

指導計画

	授業の流れ	児童の反応
導入 (5 分)	・ 講師自己紹介 ・ 「どんなお仕事をしていると思う？」 発問	「動物とふれあっている！」「えさをあげる、お掃除をする」
展開 1 どんな 仕事？ (15 分)	・ ゾウの飼育担当者の一日を動画で紹介 時折、内容に関連するクイズを出題 → 飼育員が動物園で何を考え、どのように仕事をしているか解説する	「餌をこんなに食べるの？重たくて大変そう」 「動物と関係ない仕事もしなきゃいけないの？」
展開 2 仕事の 目的 (5 分)	・ 動物園の役割を軸に、人々や社会に対してどのような関わりをもつ仕事なのか解説 → 飼育員の仕事をするにあたって重要な考えや能力を一例として紹介する	「ただ動物を飼っているだけじゃないのね」 「もし飼育員になるなら体力がないと大変そうだ」
まとめ (5 分)	・ 仕事には自身の興味関心や、多様な力を持つ人々の団結が大切であることを伝える	「私は〇〇が好きだから〇〇に関わる仕事ができ

	・動物園で飼育員の仕事が見られる場面を紹介する	るといいな」
質疑応答 (15分)	・ZOOM の挙手機能を使って講師と各学級で会話し、疑問の解消をする	「一番お世話が大変な動物はなんですか?」「飼育員になるには?」

評価の観点

- ① 講師からの発問に対し、自らの考えを表現できる（学びに向かう力・人間性）
- ② 自身の興味関心や能力と仕事を関連付け、発表できる（思考・判断・表現）

板書計画

